

日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSP0-AT)  
専門科目カリキュラム等の改定にあたって

公益財団法人日本スポーツ協会  
指導者育成委員会  
アスレティックトレーナー部会

JSP0-ATは、医療関係の法律に抵触しない範囲でスポーツドクターとの緊密な協力のもとに、競技者の健康管理、スポーツ外傷・障害の予防と応急処置、アスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを担当する者として、1994(平成6)年にJSP0公認スポーツ指導者資格の一つとして位置づけられました。その後、1996(平成8)年度から本格的な養成を開始し、2006(平成18)年のカリキュラム改定を行ったものの、10年余りが経過する中で、以下のような社会、スポーツ界の変化が生じて参りました。

- ◇ JSP0-ATの資格制度の背景変化
- ◇ スポーツ現場のニーズ拡大、求められる役割の変化
- ◇ コンディショニング技術の高度化、国内専門職の教育高度化、関連資格の多様化

このような変化を受け、スポーツ医科学の他職種連携を前提としたJSP0-ATの役割の明確化(役割とコンピテンシーの再定義)とそれに応じたカリキュラム整理を基調とし、2022(令和4)年4月に専門科目カリキュラム等の改定を行っております。

JSP0-ATの役割の明確化にあたり、医行為(※1)や医業類似行為(※2)を行うことができる資格ではなく、あくまでもスポーツ指導者資格の一つであるため、スポーツ指導者の範疇を超えた行為(診断や治療等)を行うことは、法的に認められていないことを前提といたしました。しかし、このJSP0-ATの位置づけについては、JSP0-AT取得者に医療関係職種(※3)や法的な資格制度のもと医業類似行為を行うことができる資格(※4)を有している方が多いことなども影響し、JSP0-AT取得者だけでなくスポーツ現場の関係者のなかでも解釈に差がある状況が散見されました。また、昨今のスポーツ現場においては、JSP0-ATに期待される役割が多様化し、高度な専門性が求められる状況になっております。

そのため、JSP0-ATがこれからも多様な属性のプレーヤーのパフォーマンス向上や回復に貢献し、自身も安心して活動を継続するためには、JSP0-ATの役割や位置づけを法的な観点からも整理したうえで、その指導活動を支える有事の際の保険面での補償も受けられるようにカリキュラムや様々な制度の改定が必要不可欠であると考え、今回の改定に至っております。

このように今回の改定においてJSP0-ATの役割とコンピテンシーの再定義と整理は行いましたが、あくまでもJSP0-ATとしての根本的な使命やアイデンティティは変えていないことにご留意ください。

さいごに、2024(令和6)年はJSP0-AT育成開始から30周年となります。JSP0は、「スポーツの力で、人も社会も元気にする仕組みを、“ともに”つくる」ことをミッションとしており、今後もJSP0-ATの皆さまと“ともに”、JSP0-ATの社会的信頼がさらに向上するための仕組みづくりを推進してまいりますので、引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

※1 医行為とは、ある行為を行うにあたり、医師の医学的判断及び技術をもってするのでなければ人体に危害を及ぼし、又は危害を及ぼすおそれのある行為。(厚生労働省)

※2 医業類似行為とは、医師の医学的判断及び技術をもってするのでなければ人体に危害を及ぼし、又は危害を及ぼすおそれのある「医行為」ではないが、一定の資格を有する者が行わなければ人体に危害を及ぼすおそれのある行為。

それには、あん摩、マッサージ及び指圧、はり、きゅう並びに柔道整復のほか、これら以外の手技、温熱等による療術行為であって人体に危害を及ぼすおそれのあるものが含まれる。[厚生労働省（参議院質問への答弁書）](#)

※3 医療関係職種とは、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、臨床工学技士、義肢装具士、救急救命士等（[厚生労働省](#)）

※4 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師及び柔道整復師

## 記

### JSP0-ATの役割(コンピテンシー・業務)と理念

JSP0-ATは、以下の4つの役割に関する知識と実践する能力を活用し、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援する指導者です。

- 1) スポーツ活動中の外傷・障害予防
- 2) コンディショニングやリコンディショニング
- 3) プレーヤーの安全と健康管理
- 4) 医療資格者へ引き継ぐまでの救急対応

その指導対象は、日本代表やプロスポーツ選手などとして活動する競技者のみならず、地域スポーツクラブ、学校・大学等の運動部活動、民間スポーツ施設、地域のスポーツセンターなどでスポーツ活動をするすべての人々です。

### アドミッションポリシー（資格取得希望者の受け入れに関する方針:AP）

JSP0は、上記のJSP0-ATの役割を理解の上、「スポーツ関係機関・団体等と連携して、スポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援する意欲がある者」を、養成講習会の受講者として受け入れます。

### カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針:CP）

ディプロマポリシー(DP)を達成するために、共通科目と専門科目の2つのカリキュラムによる体系的な学習を促します。

共通科目	スポーツの意義と価値を理解し、幅広いスポーツ医・科学等の知識を身につける。
専門科目	スポーツ活動中の外傷・障害予防、救急対応、コンディショニングやリコンディショニング、および安全・健康管理等に関する専門的な知識と技術を身につける。

加えて、180時間を越えるスポーツ現場での実習を通じて、共通科目および専門科目で身につけた知識と技能を実践に発展させるように促します。

### ディプロマポリシー（JSP0-AT認定に関する方針:DP）

JSP0-ATの教育カリキュラムを修了し、JSP0公認スポーツ指導者共通の資質能力（思考・判断、態度・行動、知識・技能）に加え、次の資質能力を身につけた者にJSP0-ATの資格を付与します。

知識・技能	スポーツ医・科学の知識を有し、スポーツ現場においてスポーツをする人の安全と安心を確保し、パフォーマンスの回復や向上を支援するための技術を有する者
思考・態度	・自らの役割を遂行するために、常に学び続けることができる者 ・科学的根拠に基づいたスポーツ環境の構築に寄与できる者 ・多様な人材と、有機的に連携できる者

## カリキュラムの全体像

専門科目カリキュラムは、コンピテンシーに沿った専門的な知識と実践に関わる内容と、それらの基盤となるスポーツ医・科学の基礎知識に関わる内容から構成しています。

	科目名	時間数(h)
1	JSP0-AT の役割	30
2	安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防	90
3	コンディショニング	90
4	リコンディショニング	90
5	救急対応	60
6	検査・測定と評価	30
7	人体の解剖と機能	60
8	スポーツ科学概論	90
9	スポーツ医学概論	60
10	現場実習	180

## 専門科目テキストの改定

JSP0-AT テキスト作成にあたっては、「社会全体の機能向上に繋がるもの、さらには社会の規模拡大に寄与する」内容であり「正しく、公平でありながら、信頼のある」内容とすること、JSP0-AT としての業務に必要な標準的・普偏的内容を解説し、実践的な内容は、JSP0-AT が実施できる技能に絞って記載するといった形で作成をしております。

そのため、医行為や医業類似行為は、JSP0-AT として業務を遂行する上で必要とされる知識・情報として整理・記載しております。記載する場合は、JSP0-AT が実施できる範囲をわかるようにしたり、臨床経験によって治療成果が変化するような手技、または近年注目されているものの関連主要学会などでコンセンサスを得られていない概念・治療法は、記載を避けたりしております。

## 試験実施方法等の改定

検定試験については、理論試験と実技試験で構成しておりましたが、JSP0-AT の役割やコンピテンシーの整理に伴い、これまでの理論試験に相当する試験に一本化しました。これまでの実技試験は、実技確認テストとして、養成講習会または講習・試験免除適応コース承認校における専門科目カリキュラムの一部という位置づけに変更し、JSP0-AT のコンピテンシーに直結する専門科目の6項目を3カテゴリーに集約して出題する形式で実施することとなりました。

JSP0-AT のコンピテンシーに直結する専門科目	実技確認テストで出題するカテゴリー
・ JSP0-AT の役割 ・ 安全・健康管理とスポーツ外傷・障害の予防 ・ コンディショニング ・ リコンディショニング ・ 救急対応 ・ 検査・測定と評価	カテゴリーⅠ：救急対応 カテゴリーⅡ：コンディショニング リコンディショニング カテゴリーⅢ：安全・健康管理と スポーツ外傷・障害の予防

## 適切な検査・測定と評価

前述のとおり、JSP0-AT は、スポーツ指導者の範疇を超えた行為(診断や治療等)を伴わないことを前提としつつ、4つの役割に関する知識と実践する能力を活用し、スポーツをする人の安全と安心を確保したうえで、パフォーマンスの回復や向上を支援することが役割となります。

そのため、プレーヤーの状態に合わせた適切な検査・測定と評価を行うことがより求められてきていると考えております。

例えば、JSP0-AT が実施するプレーヤーに対する検査・測定と評価においては、以下の3つの観点で常に考え判断し、「なぜその評価を行うのか」説明ができるよう心がけてください。

- ◇ その検査・測定と評価自体がプレーヤーの状態を悪化させるものになっていないか
- ◇ その検査・測定と評価の目的が診断等になっていないか
- ◇ その検査・測定と評価を行う目的が、プレーヤーの状況に合わせてコンディショニングやリコンディショニングなのか救急対応なのか正しく認識した上で適切に行えているか

お問合せ先

JSP0 スポーツ指導者育成部 指導者育成課 アスレティックトレーナー担当

電話：03-6910-5812 メールアドレス：[at@japan-sports.or.jp](mailto:at@japan-sports.or.jp)